

平成25年度 市野与進保育園の事業報告

本年度から120名の定員変更を実施し、3月は 入園児童数は140名(116.7%)で1年を終えました。また 一時預かり保育の利用者人数が減ることを想定していたため、利用者延べ人数が900人を超えたことに驚いています。これは 母親の働き方の変化で、一時預かり日数(3日)で職場探しをする人が増えてきていると考えます。しかし 待機児童の減る傾向は見せず、毎月数名程度の入園・一時預かり・見学等の問い合わせがあります。その関係で東区では、平成26年度に保育園が2か園・平成27年度にはこども園が開園する予定で認可等もおこなっています。

「利用者に選んでもらえる保育園」をめざし、まず 取り組めることから考え

- ① 平成25年度は 保育と保育士の質向上に取り組みました。これに関しては 一年でできことではありませんので、数年かけて実行していくつもりです。
- ② 子ども・子育て支援制度に向けて、民間園長会の考え方や地域の保育園の考え方、今後どのような計画を立てるか目安を作るための情報収集を行いました。
- ③ 職員育成(新規採用者研修)研修計画を作成しました。今後 経験年数に合わせた研修計画を作成していくつもりです
- ④ 120人定員に対して健全な保育園運営をどう進めていかに力を入れてきました。

法人の基本方針	概 要	内 容	実施報告
<p>・保育指針に沿った保育の実践</p>	<p>・保育指針を十分に理解し、保育指針に沿った担当業務の在り方を把握したうえで、実践し、振り返りを行う。</p> <p>・各担当組織、職員個々が目標を持って行動し、担当組織や自分の担当業務の振り返りを行う。</p> <p>(目標による管理)</p>	<p>★家庭的な雰囲気の中で「挑戦する意欲」「体験する楽しさ」を育てる。(人と関わる力・学ぶ力を育てる)</p> <p>★情緒の安定を図り、5感を大切にしながら、子どもの遊びを大切に保育</p> <p>★保育指針を踏まえての「保育園での教育とは」について</p> <p>★保育士主導の「させる保育」から子ども自ら「やってみよう保育」へ</p> <p>テーマ ・学びの芽生えを大切に</p> <p>0歳児・・「あかちゃん体操でコミュニケーション」</p> <p>1歳児・・「体と心を元気にしよう」</p> <p>2歳児・・「ふれあい遊びから見えてくる人間関係」</p> <p>3歳児・・「自分らしさを表現できる音楽あそび」</p> <p>4歳児・・「何にでも挑戦する子を育てる」</p> <p>5歳児・・「何にでも挑戦する子を育てる」</p> <p>フリー・・「野菜作りから見えた子どものつぶやき」</p> <p>給食・・「野菜をおいしく食べてもらうには」</p> <p>★「食育」</p> <p>季節の食べ物を知り、畑で採れた食材で料理する楽しさを知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもと一緒に堆肥づくり ・食文化の伝承 	<p>内容を踏まえて保育・保育士の質の向上を目指す。</p> <p>(記録をしっかりと取り、一人ひとりの子どもの育ちを大切に自分の保育を振り返る)</p> <p>今年度は実践記録をしっかりと書くということで、鯨岡先生の「エピソード記述」の本を購入し、読み合わせや自分たちが書いたエピソードの読みあわせを実施したが、要点がつかめず、実際に鯨岡先生を呼び講演会を実施。そこで エピソード記録とエピソード記述の違いを理解し、エピソード記録にこだわり保育を行った。</p> <p>職員1人ひとりが取り組めるまでには時間がかかることを踏まえ、次年度も講演会をお願いした。</p> <p>・前年度の園内研修と大きな差はなく、もう少し内容を深めた研修にしたかった。原因としては、研修の的を絞ってもよかったのではないかと</p>
<p>・国、市の方針、環境変化に応じた園の経営</p>	<p>・国の「子ども・子育て新システム」、市の保育政策等への適合をはかる。</p> <p>・地域の利用者ニーズへ対応する。</p> <p>・保育所担当行政をはじめ関係機関との連携を深める。</p> <p>・認定こども園となることを前提にして、その実現のための検討をする</p>	<p>★幼保連携型「こども園」に向けた子どもの育ちを見据えた保育(生きる力の基礎づくり)</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 児童福祉施設を認識しながら、生活体験に基づく教育を保育の中に取り入れる。 <ul style="list-style-type: none"> ・情緒の安定や大人との信頼関係を図りながら、日々安心して生活を送る。 ・遊びの中から「見る」「真似」からくる「体験」「意欲」「学ぶ」保育(生きる力)を考える。 ② 幼保連携型「こども園」に向けた情報及び方向性を考える。 <p>★自園課題の取り組み</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 保護者アンケートからくる課題の検証 自己評価から自園評価をする。 	<p>・「認定こども園」構想など 数年で移行していくことの情報や管理会議、民間園長会などの情報を常に職員に伝えるようにした。</p> <p>実際 職員には認定こども園の認識は薄い。次年度しっかりと目安を持って計画時に進める必要がある。</p>

法人の基本方針	概要	内容	実施報告
<p>・保護者への積極的な子育て支援</p>	<p>・保護者への支援、保護者との連携を強化する。 ・地域への子育て支援メニューを充実する ・保護者も保育に参加し体験することにより、保育園への理解と保育内容の理解を深める。</p>	<p>★魅力ある保育園づくり 地域の子ども・子育て支援の充実</p> <p>① 保育園の特色を出す保育 質の高い保育・アルバム</p> <p>② 親育ちを考える。 大人も姿勢を正して挨拶をしよう。</p> <p>① 保育内容が見える保育園 ・「伝えよう保育内容」5W1Hを使って、保育のプロセスを伝える。園での子どもの姿を伝える。 ・保育参加を通して、子どもが何を体験し、大人のかかわりでどのような成長をするのかを感じてもらおう</p> <p>② 社会情勢・利用者状況に合わせた保育園運営</p> <p>★地域に保育園保育の情報発信をする</p> <p>① 保育内容が見える保育園 ・「伝えよう保育内容」5W1Hを使って、保育のプロセスを伝える。</p> <p>① 親子ひろばのお母さんの保育体験と子ども理解 ・保育参加を通して、子どもが何を体験し、大人のかかわりでどのような成長をするのかを感じてもらおう。 ・保育者の子どもとの関わり方や遊びの様子を見て、家庭での子育ての参考にしてもらおう)</p> <p>② 子育てボランティアの活用 ・親子広場での育児相談</p> <p>★地域ボランティア、中高生の保育体験、実習生の育成と地域ボランティアの活用</p> <p>★異世代交流を通して地域人たちとのつながりを大切にする</p>	<p>・子育て・親育ち支援として、支援機関(ルビロ)を利用し、演題「おとうさん・おかあさん 子どもの育ちが見えますか」と題して、保護者講演会を10月・11月に予定を組んだが、10月に台風と重なり、急きょ取りやめ、11月のみとした。講演会を聞いた保護者には好評であったが、参加者が少なく大勢の保護者に参加してもらうことのむずかしさを痛感する。</p> <p>「伝えよう保育内容」ということで、写真や保育参加を通しては10月より実施。また 親子ひろばとも合わせ行うことで、保護者の声をしっかりと聞くことができよかつたと思う。</p> <p>・中高生の保育体験は15人の参加 ・地区のコーラス・食育ボランティア交流会を実施</p>
<p>・保育環境の整備</p>	<p>・子どもたちの安全と衛生的な環境を確保する。 ・危機管理体制の確立。災害対策、日々の保育事故、食事や衛生管理等。 ・修繕や備品の購入は年次を追って計画的に進める。</p>	<p>★保育園の防災・危機管理の見直し</p> <p>① 非常災害時に向けての防災機器の充実</p> <p>② 非常に対しての行動マニュアルの周知徹底</p> <p>③ 自己チェック・ヒヤリハット研修</p> <p>④ 乳幼児救急法研修、感染症研修</p> <p>★施設整備の実施</p> <p>① 屋上プールの濾過機設置</p>	<p>9月1日の地域総合防災訓練に参加をし、地域の訓練状況を知り、訓練内容心肺蘇生法、炊き出し、救急法を学ぶことができた。 今後 防災計画の中に職員研修として取り入れていきたい。</p> <p>・新規採用者が多いこともあり、園内での危機管理・保護者対応がしっかりとできていなかったこと。また経験年数が重なることによる危機管理の部分についてうすれてきたのではないかと思われるため平成26年度に向けて研修を実施したい</p> <p>・将来的に保育環境を落ち着いた家庭的な雰囲気づくりを整えていきたいと考えている。</p>

法人の基本方針	概 要	内 容	実施報告
<p>・働きやすい環境づくり、職員育成</p>	<p>・倫理性、組織性、専門性を持つ職員の育成を行う。</p> <p>・新たな研修計画の策定。</p> <p>パート職員も含めたOJTの強化、プリセプター方式による新人研修</p> <p>・自ら学ぶ姿勢を支援する</p> <p>・個々の職員のキャリアアップを目標にした人事交流を行う。</p> <p>・積極的な新規採用活動の実施</p>	<p>★最低基準に合った人事配置</p> <p>★「選ばれる保育園」をめざして人材育成をする</p> <p>① 職員が自己発揮できる職場づくり</p> <p>② 園内研修の充実</p> <p>③ OJT・プリセクターの計画表作成</p> <p>④ 経験年数・年長者による新人教育(職務内容の指導・職務に対する姿勢とアドバイス)</p> <p>⑤ 職務の記録の取り方</p> <p>⑥ 保育士としての技術、実技を学ぶ</p> <p>★自己評価体制づくり</p> <p>① 自己評価の研修参加</p> <p>② 保育の自己評価をする 個人目標(自己研鑽目標)の設定・・・自己評価</p> <p>★職歴、経験年数に応じた職員研修</p> <p>① 園外研修参加</p> <p>② 新規採用研修・・・採用者と2年目保育士実務研修</p>	<p>・岡崎保と市野与進保との人事交流を9月から実施、交流後は総括会議を開き、自園の保育の見直しに大変役に立った。次年度も実施予定</p> <p>・保育に対する自己評価については、記録の取り方の研修で順次行っていく。</p> <p>・保育園独自の自己評価づくりには至っていない。</p> <p>・人材育成のための新採プログラムは作成でき、平成26年度の初任者研修として実施をしていく。</p>
<p>・法人組織の強化</p>	<p>・組織のガバナンスを確立する。(理事、監事の研修参加。)</p> <p>・コンプライアンス経営の実践。(外部監査、監事監査とその対応)</p> <p>・本部事務の整備</p> <p>・新会計は26年度から導入とし、そのための準備を進める。</p>	<p>★理事、監事の研修に積極的に参加をする</p> <p>★監査等で指摘を受けた事項に関して実行をする。</p> <p>★事務職員は新会計研修に参加</p>	<p>・外部監査については、初歩的な事務手続きのミスがあり、今後 ミスを少なくしていくための研修が必要と考える。</p>
<p>・経営の把握と無駄の排除</p>	<p>・経営状況の適切な把握と中長期事業計画の策定。(人員と設備備品の予算根拠の明確化とその実行管理)</p> <p>・管理部門は常に現在の経営状況を把握し、随時職員にも伝える。</p> <p>・適正な経営を確保するために、無駄を排除する。</p>	<p>★中長期計画の策定をする。</p> <p>① 中長期計画策定委員会の設定する 職員全員で考え策定する</p> <p>★責任者は運営状況を丁寧に説明する</p> <p>★定員増による収入と支出のバランスを考える</p> <p>① 節電・節水対策</p> <p>② 漏水等の確認</p>	<p>・理事長指導のもと中長期計画策定中であり、完成にはいたっていない。</p> <p>節電、節水には職員一丸となって実施をしたが、冬場に入り、意識が薄れてきたようである。</p> <p>熱中症・水質管理と今年の暑さには、注意深く対応を行った。</p>

法人の基本方針	概 要	内 容	実施報告
タイムリーな情報発信	<p>・常に利用者、地域社会に情報を発信する（ホームページ、お便り、その他）</p> <p>・日頃の実践発表を保護者に伝える機会を持ち、保護者とともに保育を進める。保護者向けの発表会やホームページ上にブログによる情報発信等。</p> <p>・職員の末端に至るまで、必要な情報はタイムリーに正しく流す（月次決算、重要決定事項）</p>	<p>★魅力ある保育園づくり</p> <p>① 保育園の特色を出す保育</p> <p>★地域・利用者に向けた保育内容が見える保育園</p> <p>① 保育のプロセスを伝える 園の考えや保育者の思いを伝える 保育の様子をよりイメージしやすく伝える ・ボード・ホームページ・クラス便り・行事・保育の取り組み発表・園内掲示、</p> <p>② 保育の記録の取り方 エピソード記録をとり保護者に伝える。（発達過程の中で子どもがどのようなことを経験し、保育者がそれをどう働きかけ、子どもがどのように成長していくか）</p> <p>③ 保護者・親子ひろばの保育参加を実施 保育者の子どもの関わり方や遊びの様子を見て、家庭での子育ての参考にしてもらう</p> <p>★責任者は運営状況を丁寧に説明する</p>	<p>・エピソード記録の取り方についてはもう少し時間がかかる</p> <p>親子ひろばで保育参加に参加した人には、非常に好評で、子どもたちの育ちに関心を示し、アンケートが出ている。</p>
環境を守る取り組み	<p>・保育の中にも職員の行動にも環境問題を考えた対応をする。ものを大切に使う。動植物を大切に扱う。</p>	<p>★社会状況・経営状況を1人ひとり把握し、職員全員ができることから始める</p> <p>① 節電対策 グリーンカーテンの設置</p> <p>② ゴミの省力化 園児と一緒に堆肥づくり 職員・3歳以上児に「自分のポケットにハンカチを」運動実施</p> <p>③ プールの濾過機取り付けに伴う節水対策</p> <p>④ 漏水等の確認</p>	<p>今年のグリーンカーテンの状況は、葉のつき方、実のつき方が悪かった</p> <p>・電気量はH24年度に比べ従量電灯2, 040kva、低電圧力 24, 024kvaが節電できた</p> <p>水道量は 7・8 月で57㎡節水できた。しかし 水質検査はうまくいかず、薬剤師会の方の指導をお願いし実施した。</p>

平成25年度 保護者から寄せられた苦情

苦情ではなく「こんなことがありました」といった形で四半期ごとの広報紙に載せてくれればよいといったご意見であったため11月の広報紙に

λ 1歳児の園児が総合遊具で遊んでいる際に転落してしまいました。職員は3人の園児を連れて一緒に遊具に登っていましたが、ひとりの子に気をとられていて落ちるところは見えていませんでした。幸い後遺症もなくかすり傷すみましたが、保護者としては今後このようなことは起こさないでほしいと申し出がありました。

保育園回答といたしまして

λ 保育園としては一人ひとりの育ちを大切にし、当面は1歳まで総合遊具の使用を禁止することにしました。また 全職員で再度危険箇所を確認し、今後 このような事故が起こらないよう話し合いました。